

秋の読書特集

会刊行書

近現代日本の民間精神療法

オカルト
不可視なエネルギーの諸相

栗田英彦 塚田穂高 吉永進 一編

本書は、編者の一人吉永進一氏を磁極とした医学医療史と宗教呪術史を架橋する豊かな研究集成であり、科研「近現代の日本の民間精神療法に関する宗教史的研究―身体と社会の観点から」の総括報告書である。

医学医療史と宗教呪術史を架橋

科研メンバーを中心とした十一人の論考により全体は「Ⅰ 流入する科学的エネルギーとヨーガ」「Ⅱ 産み出す「気」と産み出される「思想」

「Ⅲ 還流するレイキ」の論集と、
「Ⅳ 民間精神療法主要人物および著作ガイド」と題した事典的な解説によって構成され



近現代日本の民間精神療法
不可視なエネルギーの諸相
オカルト史
総覧する

各論の論点と論及

はクリアーかつ綿密である。着実に先行研究を踏まえつつ新視点や新史料も盛り込まれていて刺激的で参考になる。桑原俊

する検証が加えられ、これまで十分に論じられなかった問題領域が丁寧にフォーローされている。

巻末の関連人物著作ガイドも、優に一冊の単行本となる分量と内容を備えていて、史料の価値は高い。

だが、個々の論文をつなぐ脈絡と文脈的布置が、序論と巻末ガイドで全体の輪郭が示されては

いるものの明確でないために、一つ一つが独立した島のような印象を受ける。個々の論文の前に論点と文脈の補助線や概要を示すリードがあればさらに読みやすくなるだろう。

宗教史のみならず、医学医療史や近代日本文化に関心のある人に裨益するところの大きい学術研究書である。(A5判・420頁・価4000円＋税)

評 鎌田東二

上智大学グリーンフケア
研究所特任教授・宗教学

ム、霊気、手のひら療治整体、レイキなどの療法とその思想性や概念に対